

# ごあいさつ



会長  
河村 正雄



理事長  
高橋 知史

皆さま方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当金庫に格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度は、全世界で新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、人と物の動きが急減速し、社会生活や経済活動に甚大な影響を与えました。くわえて、国際政治における米中の摩擦、世界的な財政悪化など、今後の世界情勢はこれまでも増して不透明感が高まっています。

一方、国内では、インバウンド効果等で回復基調にあった景気もコロナ禍で戦後最悪となる落ち込みを記録し、地元大阪も深刻な打撃を受けました。なかでも中小企業は、コロナ禍の影響を大きく受け、経営環境が一変し、厳しい状況が続きました。そのため、官民あげて中小企業の資金繰りを全力で支えるとともに、経営支援への取り組みを強力に推し進めました。

また、コロナ禍ではテレワークやリモート会議など「三密」を避けた新しい働き方が急速に普及し、ニューノーマルとして定着しつつあります。あわせてDX（デジタルトランスフォーメーション）が加速的に進み、デジタル化に対応した新しいビジネスモデルの構築が求められています。

そのような中、令和2年度は、中期経営計画「Smart Shinkin 2022」のスタート年度として、本計画がめざす「地域密着による課題解決No.1信用金庫」の実現に向け、全役職員が一丸となり、スピード感を持って取り組みました。IT化・デジタル化を進めるとともに、コロナ禍の中、お取引先の事業の継続を最優先とし、資金繰り支援のほか、幅広く相談に応じるため、営業店に緊急相談窓口を設置、さらに「リモート経営相談」や「オンライン経営セミナー」等により販路拡大や事業承継など課題解決を積極的に推進しました。また、お客さまとの双方向のコミュニケーションの充実に向け、営業店のロビーにコンシェルジュを配置するとともに、農産物直売所やシェアサイクルポートの設置など、異業種との連携による地域活性化への循環サイクルの構築に取り組みました。さらに、お客さま保護に向けてマネー・ローンダリングや特殊詐欺などの金融犯罪防止とあわせて、コロナ禍によりインターネットを使った金融取引の普及が加速する中、サイバーセキュリティ対策の強化を図るなど、内部管理態勢を一層強固なものとししました。

その結果、令和2年度決算も前年に引き続き安定した業績を確保し、健全性を高めました。

令和3年度も「課題解決No.1信用金庫」をめざし、「三者共栄」の経営理念と「信頼で地域とつながる」のスローガンのもと、お客さまのニーズにしっかりお応えできる地域金融機関として、使命を果たしてまいる所存でございます。

本誌は、大阪シティ信用金庫の経営方針や経営の現状について、できるだけわかりやすくお示したものです。何とぞご高覧のうえ、当金庫に対するご理解を深めていただき、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年7月

会長 河村 正雄

理事長 高橋 知史